

# 土井ヶ浜 1 号人骨・124 号人骨

松下孝幸・松下真実

【キーワード】：山口県、弥生人骨、土壌墓、高身長、抜歯、損傷

## はじめに

山口県下関市（旧・豊浦郡）豊北町大字神田上に所在する土井ヶ浜遺跡からは 300 体以上の弥生時代人骨が出土している。1 次調査から 5 次調査までの概要については日本考古学協会編「日本農耕文化の生成」に所収されており、第 6 次調査から 11 次調査については概報が、第 13 次調査から 19 次調査については報告書が刊行されている。

土井ヶ浜遺跡から出土している人骨のうち特筆すべき人骨が何体か存在する。今回報告する 1 号人骨および 124 号人骨も 1 例報告をおこなっておく必要のある人骨である。1 号人骨は「鵜を抱く女」として、また 124 号人骨は、右腕にゴホウラ製貝輪 2 個を着装した状態で出土し、しかも人骨周辺から石鏃とサメの歯鏃が検出されるといった特異な埋葬状況で出土した人骨として知られている。この 2 体の人骨はそれぞれ 1 次調査、2 次調査で発掘されているが、今日に至るまで人骨の報告がおこなわれていないので、人骨の詳しい所見を記載し、今後刊行を予定している『土井ヶ浜遺跡本報告書』作成の一助としたい。

## 資料

1 号人骨は下記の所見から女性の壮年骨である。124 号人骨は男性骨であるが、頭蓋の残存量が少なく、縫合の閉鎖・癒合状態を知ることができないので、年齢は推測できない。1 号人骨は 1 次調査（1953 年・昭和 28 年）で出土した人骨であり、124 号人骨は 2 次調査（1954 年・昭和 29 年）で出土した人骨である。所属時代は弥生時代前期中頃から中期中葉に収まると推測されるが、この範囲の中での時期を特定することができない。年齢区分は表 2 のとおりである。

なお、鵜の骨として取り上げられていた骨の中に新生児が混ざっていたので、「1 号人骨」として取り上げられていた人骨と「1 号人骨周辺」として取り上げられていた骨を精査したところ、この中からも新生児骨を検出した。骨の大きさから、この骨は鵜の骨の中に混ざっていたものと同一個体と思われる。この新生児に「1a 人骨」という新たな番号を付けた。

表 1 人骨一覧 (Table 1. List of skeletons)

人骨番号	性別	年齢	備考（推定身長値）
1 号人骨	女性	壮年	150.64cm
1a 号人骨	—	乳児	新生児
ST-124 人骨	男性	不明	163.27cm、ゴウホウラ製貝輪 2 個着装（右前腕）

## 所 見

各人骨の残存部は図1に示すとおりである。また、各骨の計測値は文末に一括して掲げた。

表2 年齢区分 (Table 2. Division of age)

	年齢区分	年	齢
未成人	乳児	1歳未満	
	幼児	1歳～5歳	(第一大臼歯萌出直前まで)
	小児	6歳～15歳	(第一大臼歯萌出から第二大臼歯歯根完成まで)
	成年	16歳～20歳	(蝶後頭軟骨結合癒合まで)
成人	壮年	21歳～39歳	(40歳未満)
	熟年	40歳～59歳	(60歳未満)
	老年	60歳以上	

注) 成年という用語については土井ヶ浜遺跡第14次発掘調査報告書(1996)を参照されたい。

### I. 1号人骨(女性、壮年)

#### 《埋葬姿勢》

埋葬姿勢は仰臥である。頭位は東。肘関節は両側とも強屈状態である。右側は上腕を内旋している。大腿を「ハ」の字状に開いて、膝関節は両側とも屈曲しているが、右側は約40度に曲げ、左側は強屈状態である。このように膝関節を強屈したものは土井ヶ浜遺跡ではきわめて少数である。

#### 《人骨の形質》

##### 1. 頭蓋

###### (1) 脳頭蓋

ほぼ完全である。外後頭隆起の発達はよくない。乳様突起もやや小さい。外耳道は両側とも観察できたが、骨腫は認められない。縫合は、三主縫合とも内外両板が開離している。

脳頭蓋の計測値は、頭蓋最大長が179mm、頭蓋最大幅は139mm、バジオン・ブレグマ高は129mmである。頭蓋長幅示数は77.65、頭蓋長高示数は72.07、頭蓋幅高示数は92.81となり、頭型は中頭型、中頭型、中頭型(meso-, ortho-, metriokran)に属している。また、頭蓋水平周は514mm、横弧長は305mm、正中矢状弧長は375mmである。

###### (2) 顔面頭蓋

顔面頭蓋は前頭骨の右側の眼窩部の一部、右側の上顎骨前頭突起の大部分と右側鼻骨を欠損している以外はほぼ完全である。眉上弓はわずかに隆起し、前頭結節の発達は良好で、前頭鱗は膨隆している。鼻骨の隆起は弱く、鼻根部は扁平である。また、頬骨の外側への張り出しは強い。

顔面頭蓋の計測値は、頬骨弓幅が140mm、中顔幅も106mmあり、顔の幅径は広く、計測値は男性並みである。顔高は112mm、上顔高は(63)mmで、幅径の割に高径が低く、顔示数は80.00(K)、105.66(V)、上顔示数は(45.00)(K)、(59.43)(V)となり、顔面には低・広顔傾向が認められる。

眼窩幅は42mm(左)、眼窩高は33mm(右)、32mm(左)で、眼窩示数は76.19(左)となり、左側は中眼窩(mesokonch)の下限に属している。

鼻幅は25mm、鼻高は46mmで、鼻示数は54.35となり、低鼻(chamaerrhin)に属している。

鼻根部の計測はほとんどできないが、前頭突起は前額方向を向いており、鼻骨の鼻骨間縫合へ向かう隆起は弱く、鼻根部は扁平であり、鼻根角は164度と大きく、鼻根陥凹示数も7.41とかなり小さくなり、鼻は低い。

側面角は、鼻側面角が91度で、歯槽側面角は計測できないが、観察したところ、弱い歯槽性突顎の傾向がうかがえる。

下顎骨はほぼ完全である。下顎角は外反している。下顎体の高径は低く、下顎枝は幅広く、下顎切痕は浅い。弱い角前切痕が認められる。また、左側の下顎頭は右側に比べて明らかに小さく、顎関節に異常が認められる。

## 2. 歯

上下両顎には歯が釘植していた。残存歯と歯槽の状態を歯式で示すと、次のとおりである。

8	●	6	5	4	3	●	1		1	●	3	4	5	6	●	8
8	7	6	5	4	③	●	①		①	●	3	4	5	⑥	7	8

【●：歯槽閉鎖 ○：歯槽開存 /：不明 ▽：先天性欠損、番号は歯種】

【1：中切歯、2：側切歯、3：犬歯、4：第一小臼歯、5：第二小臼歯、6：第一大臼歯、7：第二大臼歯、8：第三大臼歯】

下顎の右側側切歯の歯槽は完全には閉鎖していない。おそらく抜去されてあまり時間が経っていないものと思われる。上顎の右側の第二小臼歯と第二大臼歯に齶蝕が認められるが、第二大臼歯は残根状態になっている。上下両顎の側切歯は抜去され、歯槽が閉鎖している。風習的抜歯の痕跡である。

咬耗度はBrocaの1度(咬耗がエナメル質のみ)で、歯の咬耗は弱い。また、歯の咬合形式は鋏状咬合である。

## 3. 四肢骨

### (1) 上肢骨

肩甲骨、鎖骨、上腕骨、橈骨、尺骨が残存していた。

#### ①鎖骨

両側が残存していた。長さはやや長い。

#### ②上腕骨

両側ともほぼ完全である。長さはそれほど長いものではないが、骨体はやや太く、右側の三角筋粗面の発達は良好で、骨体は扁平である。また、骨体は三角筋粗面部で「く」の字状に曲がっているが、これは三角筋粗面の発達が良好であるため、このような「く」の字状の上腕骨は縄文人によくみられる。滑車上孔は存在しない。

計測値は、最大長が275mm(右)、278mm(左)、骨体最小周は59mm(右)、60mm(左)、中央周は65mm(右)、64mm(左)で、長厚示数は21.45(右)、21.58(左)である。また、中央最大径は23mm(右)、22mm(左)、中央最小径は15mm(右)、15mm(左)で、骨体断面示数は65.22(右)、68.18(左)となり、骨体には強い扁平性が認められる。

#### ③橈骨

両側ともほぼ完全に近い。長さはやや長く、骨体はやや細く、骨間縁は骨体近位1/3あたりで鋭く

突出している。

#### ④尺骨

両側とも遠位端を欠損している以外は保存良好である。骨体は細いが、関節部は大きく、骨間縁はシャープである。

#### (2) 下肢骨

寛骨、大腿骨、脛骨および腓骨が残存していた。

#### ①寛骨

左右とも恥骨を欠損している。大坐骨切痕の角度は大きく、右側の耳状面前溝はやや深い。

#### ②大腿骨

左側はほぼ完全であるが、右側は遠位部を欠損している。長さはやや長く、粗線の発達も良好であるが、骨体の後方への発達が悪い。骨体上部は扁平である。

計測値は、最大長が400mm(左)、骨体中央周は88mm(右)、88mm(左)で、長厚示数は22.06(左)となり、骨体は頑丈である。骨体中央矢状径は28mm(右)、27mm(左)、横径は29mm(右)、29mm(左)で、骨体中央断面示数は96.55(右)、93.10(左)となり、粗線や骨体両側面の後方への発達はきわめて悪い。また、上骨体断面示数は78.13(右)、75.00(左)となり、骨体上部は扁平である。

#### ③脛骨

両側とも近位部を欠損している。ヒラメ筋線の発達は悪く、骨体はやや扁平で、骨体の断面形は両側ともヘリチカのⅡ型を呈している。

計測値は、中央最大径が27mm(右)、28mm(左)、中央横径は19mm(右)、19mm(左)で、中央断面示数は70.37(右)、67.86(左)となり、左側骨体はやや扁平である。骨体周は74mm(右)、75mm(左)、最小周は69mm(右)、69mm(左)で、骨体は太い。

#### ④腓骨

両側の骨体が残存していたが、左側の方が保存状態は良好である。骨体は細い。

#### 4. 推定身長値

大腿骨最大長から、Pearson および藤井の公式を用いて推定身長値を算出すると、それぞれ150.64cm(Pearson、右)、150.64cm(藤井、右)となり、高身長である。

#### 5. 性別・年齢

眉上弓の隆起が弱く、前頭結節も発達しており、大坐骨切痕の角度や恥骨下角が大きいことから、性別を女性と推定した。年齢は、三主縫合とも内外両板が開離していることから壮年と考えられる。

#### II. 1a号人骨(新生児)

鵜の骨として取り上げられていた骨の中に新生児骨が混ざっていたので、「1号人骨」として取り上げられていた人骨と「1号人骨周辺」として取り上げられていた骨を精査したところ、新生児骨を検出した。この骨は鵜の骨の中に混ざっていたものと大きさから同一個体と思われる。

残存していたのは、左側側頭骨の岩様部、右側上腕骨、左側橈骨と尺骨、右側大腿骨、左側脛骨である。四肢骨の大きさは京町遺跡から出土した新生児骨(KB-153)よりもわずかに大きい程度の新生

児骨である。新生児骨が鵜の骨として取り上げられていた骨の中や、1号人骨周辺として取り上げられていた骨の中に含まれていたことから、この被葬者（1号人骨）が埋葬されていた付近に新生児が埋葬されていた可能性が強い。

### Ⅲ. ST-124人骨（男性・年齢不明）

#### 《埋葬姿勢》

埋葬姿勢は仰臥である。頭位は東。右側肘関節は伸展、左側は約110度に曲げている。右側の膝関節は約110度に、左側は約120度に曲げた状態であるが、股関節の状態から推測すれば、埋葬時には膝関節はこの角度ぐらい曲げた状態で立っていたものが、埋葬後腐敗する過程で、土圧によって両側に倒れたものと思われる。

#### 《人骨の形質》

形質を述べる前に、本例の残存状態の特徴を指摘しておきたい。全体的に保存状態は良好である。にもかかわらず、頭蓋、上部頸椎、左側尺骨の残存状態はかなり悪い。顔面頭蓋には破砕を受けた痕跡が認められ、第1頸椎～第3頸椎および舌骨、胸骨が残存していない。出土状況の写真を見ると胸骨も保存状態は悪いものの、残存していたようであるが、実物は存在しない。

#### 1. 頭蓋

##### (1) 脳頭蓋

残存状態は悪い。後頭骨、左右の頭頂骨および前頭骨の一部が残存していた。外後頭隆起の発達は比較的良好である。乳様突起はやや小さい。右側の外耳道は観察できたが、後壁に骨腫が認められる。三主縫合のうち冠状縫合は内外両板とも開離しているが、矢状縫合は内外両板とも癒合しており、ラムダ縫合では、おそらく内板は癒合していたようで、ラムダ部分は外板も癒合している。脳頭蓋の計測はできない。頭型は推測も困難である。

##### (2) 顔面頭蓋

顔面頭蓋の残存量はきわめて少ない。前頭骨の眉間部分と右側頬骨、右側上顎骨の歯槽突起が残存していたに過ぎない。眉間には隆起は見られない。また、頬骨はあまり大きくない。

下顎骨は右側の下顎枝が残存していた。下顎枝の幅はやや狭く、下顎切痕は深い。また、咬筋粗面の発達は良好である。角前切痕は認められない。

#### 2. 歯

残存歯と歯槽の状態を歯式で示すと、次のとおりである。

／／⑥⑤4③●①	／／／／／／／／
／76／／／／／	／／／／／／／／

【●：歯槽閉鎖 ○：歯槽開存 ／：不明 ▽：先天性欠損、番号は歯種】

〔1：中切歯、2：側切歯、3：犬歯、4：第一小臼歯、5：第二小臼歯、6：第一大臼歯、7：第二大臼歯、8：第三大臼歯〕

上顎第一小臼歯と下顎第一大臼歯は歯根のみが残っていたが、明らかに歯根部分を砕かれている。下顎第二大臼歯の咬耗度はBrocaの1度（咬耗がエナメル質のみ）で、縫合の閉鎖状態から推測される年齢からすれば咬耗はかなり弱い。上顎右側側切歯の歯槽は閉鎖しており、風習的抜歯の痕跡が認

められる。左側上顎骨の歯槽突起が残存していないので、左側については抜歯の有無は不明であるが、両側抜歯の可能性はかなり強い。

### 3. 四肢骨

#### (1) 上肢骨

肩甲骨、鎖骨、上腕骨、橈骨、尺骨が残存していた。

##### ①鎖骨

両側ともほぼ完全である。太くて頑丈である。

##### ②上腕骨

左右とも完全である。長さの割に骨体は太く、三角筋粗面の発達も良好で、頑丈である。

計測値は、最大長が306mm(右)、303mm(左)、骨体最小周は68mm(右)、68mm(左)、中央周は70mm(右)、70mm(左)で、長厚示数は22.22(右)、22.44(左)となり、頑丈である。また、中央最大径は24mm(右)、24mm(左)、中央最小径は17mm(右)、18mm(左)で、骨体断面示数は70.83(右)、75.00(左)となり、左側の扁平性は強くはないが、右側は扁平である。

##### ③橈骨

両側とも完全である。長さはやや長く、骨体はかなり太い。骨間縁は骨体近位1/3あたりで鋭く突出しているが、その程度は左側の方がより強い。

##### ④尺骨

右側はほぼ完全であるが、左側の遺存状態は悪い。右側骨体は太く、骨間縁は著しく外側に飛び出している。左側橈骨は完全に残っているのに、なぜか左側尺骨の遺存状態は悪い。

#### (2) 下肢骨

寛骨、大腿骨、脛骨および腓骨が残存していた。

##### ①寛骨

左右ともほぼ完全である。径はやや大きく、大坐骨切痕の角度は小さい。また、恥骨下角も小さい。

##### ②大腿骨

左右とも完全である。長さは長く、粗線も骨体両側面の後方への発達もきわめて良好で、骨体近位部は外側へ強く捻転している。

計測値は、最大長が436mm(右)、437mm(左)、骨体中央周は86mm(右)、91mm(左)で、長厚示数は19.86(右)、20.97(左)となり、骨体はそれほど頑丈ではない。骨体中央矢状径は30mm(右)、32mm(左)、横径は24mm(右)、25mm(左)で、骨体中央断面示数は125.00(右)、128.00(左)となり、粗線や骨体両側面の後方への発達はきわめて良好である。また、上骨体断面示数は86.67(右)、83.87(左)となり、骨体上部には扁平性はほとんど認められない。

##### ③脛骨

両側とも完全である。ヒラメ筋線の発達は悪いが、骨体は大きく、きわめて頑丈である。骨体の断面形は両側ともヘリチカのV型を呈している。

計測値は、脛骨最大長が358mm(右)、359mm(左)、骨体周は82mm(右)、86mm(左)、最小周は78mm(右)、77mm(左)で、骨体は太く、長厚示数は22.29(右)、22.00(左)となり、骨体は頑丈で

ある。中央最大径は30mm(右)、31mm(左)、中央横径は23mm(右)、25mm(左)で、中央断面示数は76.67(右)、80.65(左)となり、骨体には扁平性はまったく認められない。

#### ④腓骨

両側ともほぼ完全である。長さは長く、骨体の径も大きく、稜の発達は良好で、溝も深い。左側は外側へかなり彎曲している。

#### 4. 推定身長値

大腿骨最大長から、Pearson および藤井の公式を用いて推定身長値を算出すると、それぞれ163.27cm(Pearson、右)、163.46cm(Pearson、左)、162.59cm(藤井、右)、162.81cm(藤井、左)となり、高身長である。

#### 5. 性別・年齢

性別は、大坐骨切痕の角度や恥骨下角が小さいことから、男性と推定した。年齢は、矢状縫合の内板の一部とラムダ縫合の内板がともに癒合していることから、熟年と考えられる。

#### 6. 特殊所見

本例にはいくつか特異な所見が認められる。右側前腕にゴホウラ製腕輪を2個装着していること、顔面が破砕されていること、頭蓋、寛骨、椎骨に傷が認められることである。

##### ①前頭骨の傷

前頭鱗のバジオンに近い部分で、ほぼ正中部に長径約15mm、短径約6mmの菱形状の裂孔が認められる。外板の縁は鋭く、内板は大きく内側に剥落している。この所見は外板から異物が頭蓋内部に強い衝撃を伴って侵入したことを物語っている。本例の体部から石鏃とサメの歯が出土していることから、この傷は石鏃が貫入した痕跡かと疑ってみた。残存している石鏃をこの傷口に当ててみたが、裂孔の方がはるかに大きく、これは石鏃が貫入した跡ではない。大きさから射込まれたのは石鏃ではなく、もっと大きな武器と思われる。裂孔の内部の縁に鉄鏃が付着しており、左側頭頂骨の内板にも鉄鏃を認めた。射込まれたのは鉄鏃の可能性が強い。内板の剥落は後部の方がより広いので、武器は頭蓋の真上から射込まれたのではなく、わずかに前方から後方へ向かってやや斜めに射込まれたようである。本被葬者は石鏃を射込まれて殺されたと推測されているが、この頭蓋にみられる貫入痕は石鏃ではなく、鉄鏃などのやや大型の武器によるものである。

##### ②顔面破砕

前述しているように本例は顔面骨の残存量が少ない。残存している部分を観察してみると、断端部分が鋭い。これは骨になって、破砕されたのではなく、まだ軟部組織が残存している時に骨が砕かれたことを物語っている。その痕跡は、前頭骨、下顎骨、側頭骨にみられる。おそらく顔面部を徹底的に破砕されたのだろう。

##### ③寛骨にみられる傷

左側寛骨の腸骨翼に直径約5mmの孔があいている。この孔は自然にあいた孔ではなく、傷口の所見から、異物が腸骨内側から後方へ貫いたためにあいた孔のようである。また、左側腸骨体の弓状線より15mmほど下(坐骨寄り)に幅約13mmの裂傷が認められる。骨の一部がまくれていることから異物

が侵入したようである。

右側寛骨では、坐骨体の寛骨臼のうしろにも幅約 15mm の裂口が認められる。深さは一番深いところで約 3mm ある。傷口は鋭利ではない。

#### ④椎骨の傷

第 1～第 3 頸椎が残存していない。また、本例は胸椎が 11 個しかなく、腰椎は 6 個ある。第 11 胸椎体と第 1 腰椎体の間に傷が認められる（第 11 胸椎体では下部に、第 1 腰椎体では上部に）。傷は椎体の左側で椎弓根の近くにある。両椎体には石の剥片が食い込んでいるように見える。その石の剥片は椎体の上面と下面にそれぞれ食い込んでいるが、椎体側面の傷は大きくない。椎体の側面から石鏃などの武器が刺さったにしては状態がおかしい。入射傷は小さいのに、奥の傷口が大きい。どのような武器を想定すればいいのか、わからない。

第 1～第 3 頸椎が存在しないが、舌骨も残存していない。舌骨は保存状態が良好な場合でも残存していないことがあるが、上部頸椎が残存していないのは考えられない。顔面骨や下顎骨も大部分が残存していないことから、顔面から首にかけて破砕された可能性も考えられる。

### 要 約

山口県下関市豊北町（旧・豊浦郡豊北町）大字神田上にある土井ヶ浜遺跡の発掘調査で出土した 1 号人骨および 124 号人骨を解剖学的、人類学的に精査し、観察や計測をおこなったところ、興味ある所見を得た。その結果は次のとおりである。

1. 1 号人骨は壮年の女性骨で、124 号人骨は熟年の男性骨である。前者は 1 次調査で、後者は 2 次調査で出土した。所属時代は、弥生時代の前期中頃から中期中葉であるが、その中での時期を特定することはできない。
2. 1 号人骨に伴って検出された「鶉の骨」の中と「1 号人骨周辺」として取り上げられていた人骨の中に新生児骨を新たに認めた（「1a 人骨」と番号をつけた）。おそらく 1 号人骨周辺に埋葬されていたのであろう。
3. 1 号（人骨）の埋葬姿勢は仰臥で、肘関節と膝関節は強屈状態であるが、膝を強屈させた埋葬姿勢は土井ヶ浜遺跡では数がきわめて少ない。膝を強屈させるのは例外的な姿勢と考えられる。124 号（人骨）も仰臥であるが、肘関節と膝関節はわずかに曲げる程度で、ほぼ伸展状態である。
4. 1 号人骨と 124 号人骨には風習的抜歯がみられた。前者は上下両顎の側切歯の抜去で、後者は上顎右側側切歯が抜去されていた。なお後者では右側上顎と下顎の歯槽の観察ができなかった。
5. 1 号人骨の頭蓋長幅示数は 77.65、頭蓋長高示数は 72.07、頭蓋幅高示数は 92.81 となり、頭型は中頭型である。
6. 1 号人骨の顔面頭蓋の計測値は、頬骨弓幅 140mm、中顔幅 106mm、顔高 112mm、上顔高 (63)mm で、顔示数は 80.00 (K)、105.66 (V)、上顔示数は (45.00) (K)、(59.43) (V) となり、高径の割に幅径がかなり広く、顔面には低・広顔傾向が認められる。
7. 1 号人骨の上腕骨は太くて短く、三角筋粗面の発達も良好である。大腿骨は長くて太いが、粗線



の発達は悪い。脛骨も頑丈である。大腿骨からの推定身長値は 150.64 cm (Pearson、右) となり、高身長である。

8. 124 号人骨の頭蓋は破砕されているだけでなく、部品（顔面骨）そのものが足りない。頭型や顔面の特徴は不明である。

9. 124 号人骨の四肢骨は太くて頑丈である。大腿骨と脛骨は長い、上腕骨は短い。また大腿骨の粗線や骨体両側面の後方への発達は良好である。大腿骨からの推定身長値は 163.27cm (Pearson、右) で、高身長である。

10. 124 号人骨の右側前腕には 2 個のゴホウラ製腕輪が装着されていた。おそらくシャーマンであろう。この被葬者の顔面は破砕されており、前頭骨には利器が貫通した痕跡が認められ、寛骨と椎骨にも殺傷痕が複数認められる。また、上部頸椎や舌骨が残存していない。どのような武器が使用されたのかはまだ検討を要するが、尋常な状態でないことだけは確かである。

#### 《参考文献》

1. 金関丈夫・坪井清足・金関怨、1961：山口県土井浜遺跡。『日本考古学協会編、1961、日本農耕文化の生成、東京堂』所収
2. 金関丈夫・他、1960：山口県豊浦郡豊北町土井ヶ浜遺跡出土の弥生式時代人頭骨について。人類学研究、7（附録）：1-36.
3. 土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム編、1993：土井ヶ浜遺跡と弥生人
4. 土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム編、1999：土井ヶ浜遺跡の弥生人たち



表3 脳頭蓋 (mm) (Crania)

	土井ヶ浜	
	1	女性
1.	頭蓋最大長	179
8.	頭蓋最大幅	139
17.	バジオン・プレグマ高	129
8/1	頭蓋長幅示数	77.65
17/1	頭蓋長高示数	72.07
17/8	頭蓋幅高示数	92.81
1+8+17/3	頭蓋モズルス	149.00
5.	頭蓋底長	94
9.	最小前頭幅	98
10.	最大前頭幅	116
11.	両耳幅	127
12.	最大後頭幅	-
13.	乳突幅	102
7.	大後頭孔長	33
16.	大後頭孔幅	30
16/7	大後頭示数	90.91
23.	頭蓋水平周	514
24.	横弧長	305
25.	正中矢状前頭弧長	375
26.	正中矢状前頭頂弧長	130
27.	正中矢状後頭頂弧長	126
28.	正中矢状後頭弧長	119
29.	正中矢状前頭弦長	114
30.	正中矢状後頭弦長	114
31.	正中矢状後頭弦長	99
29/26	矢状前頭示数	87.69
30/27	矢状頭頂示数	90.48
31/28	矢状後頭示数	83.19

表4 顔面頭蓋 (mm, 度) (Facial skeleton)

	土井ヶ浜	
	1	女性
40.	顔長	-
41.	側顔長	72
42.	下顔長	106
43.	上顔幅	106
45.	頬骨弓幅	140
46.	中顔幅	106
47.	頭高	112
48.	上顔高	(63)
47/45	示数 (K)	80.00
48/45	上顔示数 (K)	(45.00)
47/46	顔示数 (V)	105.66
48/46	上顔示数 (V)	(59.43)
40+45+47/3	顔面モズルス	-
50.	前眼窩間幅	-
44.	両眼窩幅	-
50/44	眼窩間示数	-
51.	眼窩幅 (右)	-
	眼窩幅 (左)	42
52.	眼窩高 (右)	33
	眼窩高 (左)	32
52/51	眼窩示数 (右)	-
	眼窩示数 (左)	76.19
54.	鼻幅	25
55.	鼻高	46
54/55	鼻示数	54.35
55 (1)	梨状口高	-
56.	鼻骨長	-
57.	鼻骨最小幅	-
57(1)	鼻骨最大幅	-
60.	上顎歯槽長	-
61.	上顎歯槽幅	-
62.	口蓋長	-
63.	口蓋幅	-
64.	口蓋高	-
61/60	上顎歯槽示数	-
63/62	口蓋示数	-
64/63	口蓋高示数	-
72.	全側面角	-
73.	鼻側面角	91
74.	齒槽側面角	-

表5 鼻根部 (mm, 度) (Nasal root)

	土井ヶ浜	
	1	女性
50.	前眼窩間幅	-
50 A.	鼻根横弧長	-
50/50A	鼻根彎曲示数	-
57.	鼻骨最小幅	-
44.	両眼窩幅	-
50/44	眼窩間示数	-
a.	前頭突起上幅 (右)	10
	前頭突起上幅 (左)	10
b.	前頭突起水平傾斜角	-
c.	G-N投影距離	1
d.	鼻根角	164
e.	G-R距離	27
f.	垂線高	2
f/e	鼻根陥凹示数	7.41
77.	鼻類骨角	-
Fa	fmo間距離	-
Fh	垂線高	-
Fh/Fa	顔面扁平示数	-

表6 下顎骨 (mm, 度) (Mandibula)

	土井ヶ浜		土井ヶ浜
	1	女性	
65.	下顎関節突起幅	-	男性
65(1).	下顎筋突起幅	101	-
66.	下顎角幅	103	-
67.	前下顎幅	48	-
68.	下顎長	68	-
68(1).	下顎長	105	-
69.	オトガイ高	27	-
69(1).	下顎体高 (右)	31	-
	下顎体高 (左)	30	-
69(2).	下顎体高 (右)	27	-
	下顎体高 (左)	25	-
70.	枝高 (右)	54	62
	枝高 (左)	52	-
70(1).	前枝高 (右)	54	-
	前枝高 (左)	54	-
70(2).	最小枝高 (右)	46	52
	最小枝高 (左)	50	-
70(3).	下顎切痕高 (右)	10	-
	下顎切痕高 (左)	10	-
71(1).	下顎切痕幅 (右)	37	-
	下顎切痕幅 (左)	35	-
71.	枝幅 (右)	33	35
	枝幅 (左)	30	-
71 a.	最小枝幅 (右)	33	34
	最小枝幅 (左)	30	-
79.	下顎枝角 (右)	132	-
	下顎枝角 (左)	134	-
66/65	下顎幅示数	-	-
68/65	幅長示数	-	-
68(1)/65	幅長示数	-	-
69(2)/69	下顎高示数 (右)	100.00	-
	下顎高示数 (左)	92.59	-
71/70	下顎枝示数 (右)	61.11	56.45
	下顎枝示数 (左)	57.69	-
71/70(2)	下顎枝示数 (右)	71.74	65.38
	下顎枝示数 (左)	60.00	-
70(3)/71(1)	下顎切痕示数 (右)	27.03	-
	下顎切痕示数 (左)	28.57	-

表 7 肩甲骨 (mm) (Scapula)

	土井ヶ浜		土井ヶ浜	土井ヶ浜
	1	124		
	女性	男性	女性	男性
12. 関節窩長 (右)	31	37		
	(左)	33	37	
13. 関節窩幅 (右)	25	28		
	(左)	26	27	
14. 関節窩深 (右)	4	5		
	(左)	5	5	
13/12 関節窩長幅示数 (右)	80.65	75.68		
	(左)	78.79	72.97	
14/12 関節窩曲示数 (右)	12.90	13.51		
	(左)	15.15	13.51	

表 8 鎖骨 (mm) (Clavicula)

	土井ヶ浜		土井ヶ浜	土井ヶ浜
	1	124		
	女性	男性	女性	男性
1. 鎖骨最大長 (右)	-	-		
	(左)	-	-	
2 a 骨体彎曲高 (右)	-	31		
	(左)	-	-	
2(1) 肩峰彎曲高 (右)	-	-		
	(左)	-	-	
4. 中央垂直径 (右)	9	10		
	(左)	10	10	
5. 中央矢状径 (右)	12	14		
	(左)	13	14	
6. 中央周 (右)	36	41		
	(左)	37	41	
6/1 長厚示数 (右)	-	-		
	(左)	-	-	
2 a/1 彎曲示数 (右)	-	-		
	(左)	-	-	
4/5 鎖骨断面示数 (右)	75.00	71.43		
	(左)	76.92	71.43	
2(1)/1 肩峰端彎曲示数 (右)	-	-		
	(左)	-	-	

表 9 上腕骨 (mm) (Humerus)

	土井ヶ浜		土井ヶ浜	土井ヶ浜
	1	124		
	女性	男性	女性	男性
1. 上腕骨最大長 (右)	275	306		
	(左)	278	303	
2. 上腕骨全長 (右)	271	301		
	(左)	274	299	
3. 上端幅 (右)	43	48		
	(左)	-	48	
3(1). 横上径 (右)	45	52		
	(左)	46	52	
4. 下端幅 (右)	51	58		
	(左)	-	60	
5. 中央最大径 (右)	23	24		
	(左)	22	24	
6. 中央最小径 (右)	15	17		
	(左)	15	18	
7. 骨体最小周 (右)	59	68		
	(左)	60	68	
7 (a). 中央周 (右)	65	70		
	(左)	64	70	
8. 頭周 (右)	117	139		
	(左)	124	133	
9. 頭最大横径 (右)	38	43		
	(左)	38	42	
10. 頭最大矢状径 (右)	39	45		
	(左)	41	45	
11. 滑車幅 (右)	19	-		
	(左)	18	23	
12. 小頭幅 (右)	-	19		
	(左)	-	17	
12(a). 滑車幅および小頭幅 (右)	-	-		
	(左)	-	46	
13. 滑車深 (右)	23	-		
	(左)	23	27	
14. 肘頭窩幅 (右)	23	26		
	(左)	-	29	
15. 肘頭窩深 (右)	13	12		
	(左)	-	15	
6/5 骨体断面示数 (右)	65.22	70.83		
	(左)	68.18	75.00	
7/1 長厚示数 (右)	21.45	22.22		
	(左)	21.58	22.44	

表 10 橈骨 (mm) (Radius)

	土井ヶ浜		土井ヶ浜	土井ヶ浜
	1	124		
	女性	男性	女性	男性
1. 最大長 (右)	-	243		
	(左)	-	241	
1 b. 平行長 (右)	-	241		
	(左)	-	239	
2. 機能長 (右)	-	226		
	(左)	-	226	
3. 最小周 (右)	38	46		
	(左)	35	45	
4. 骨体横径 (右)	16	18		
	(左)	15	19	
4 a. 骨体中央横径 (右)	14	17		
	(左)	14	17	
4(1). 小頭横径 (右)	-	25		
	(左)	-	23	
4(2). 頸横径 (右)	13	15		
	(左)	13	14	
5. 骨体矢状径 (右)	10	12		
	(左)	10	14	
5 a. 骨体中央矢状径 (右)	10	13		
	(左)	11	14	
5(1). 小頭矢状径 (右)	-	26		
	(左)	-	25	
5(2). 頸矢状径 (右)	14	17		
	(左)	15	17	
5(3). 小頭周 (右)	-	81		
	(左)	-	78	
5(4). 頸周 (右)	43	50		
	(左)	45	50	
5(5). 骨体中央周 (右)	40	47		
	(左)	40	49	
5(6). 骨下端幅 (右)	-	32		
	(左)	-	34	
3/2 長厚示数 (右)	-	20.35		
	(左)	-	19.91	
5/4 骨体断面示数 (右)	62.50	66.67		
	(左)	66.67	73.68	
5 a/4 a 中央断面示数 (右)	71.43	76.47		
	(左)	78.57	82.35	

表 11 尺骨 (mm) (Ulna)

	土井ヶ浜		土井ヶ浜	土井ヶ浜
	1	124		
	女性	男性	女性	男性
1. 最大長 (右)	-	262		
	(左)	-	-	
2. 機能長 (右)	214	228		
	(左)	-	-	
2(1). 肘頭尺骨頭長 (右)	238	258		
	(左)	-	-	
3. 最小周 (右)	34	40		
	(左)	32	42	
6. 肘頭幅 (右)	-	29		
	(左)	-	-	
6(1). 上幅 (右)	30	37		
	(左)	28	-	
7. 肘頭深 (右)	23	26		
	(左)	-	-	
8. 肘頭高 (右)	21	21		
	(左)	19	-	
11. 尺骨矢状径 (右)	13	14		
	(左)	13	-	
12. 尺骨横径 (右)	16	19		
	(左)	15	-	
S 中央最小径 (右)	11	13		
	(左)	11	-	
L 中央最大径 (右)	16	19		
	(左)	16	-	
C 中央周 (右)	46	53		
	(左)	47	-	
3/2 長厚示数 (右)	15.89	17.54		
	(左)	-	-	
11/12 骨体断面示数 (右)	81.25	73.68		
	(左)	86.67	-	
S/L 中央断面示数 (右)	68.75	68.42		
	(左)	68.75	-	

表 12 大腿骨 (mm) (Femur)

	土井ヶ浜		土井ヶ浜
	1	124	
	女性	男性	
1. 最大長 (右)	-	436	
	400	437	(左)
2. 自然位全長 (右)	-	433	
	399	434	(左)
3. 最大転子長 (右)	-	420	
	392	423	(左)
4. 自然位転子長 (右)	-	410	
	386	414	(左)
6. 骨体中央矢状径 (右)	28	30	
	27	32	(左)
7. 骨体中央横径 (右)	29	24	
	29	25	(左)
8. 骨体中央周 (右)	88	86	
	88	91	(左)
9. 骨体上横径 (右)	32	30	
	32	31	(左)
10. 骨体上矢状径 (右)	25	26	
	24	26	(左)
15. 頸垂直径 (右)	29	37	
	31	38	(左)
16. 頸矢状径 (右)	22	30	
	23	29	(左)
17. 頸周 (右)	88	111	
	88	112	(左)
18. 頭垂直径 (右)	40	46	
	40	46	(左)
19. 頭横径 (右)	41	47	
	41	46	(左)
20. 頭周 (右)	132	150	
	132	148	(左)
21. 上頸幅 (右)	-	80	
	-	82	(左)
8/2 長厚示数 (右)	-	19.86	
	22.06	20.97	(左)
6/7 骨体中央断面示数 (右)	96.55	125.00	
	93.10	128.00	(左)
10/9 上骨体断面示数 (右)	78.13	86.67	
	75.00	83.87	(左)

表 13 脛骨 (mm) (Tibia)

	土井ヶ浜		土井ヶ浜
	1	124	
	女性	男性	
1. 脛骨全長 (右)	-	350	
	-	350	(左)
1 a. 脛骨最大長 (右)	-	358	
	-	359	(左)
1 b. 脛骨長 (右)	-	350	
	-	351	(左)
2. 顆粒間距離 (右)	-	334	
	-	336	(左)
3. 最大上端幅 (右)	-	78	
	-	82	(左)
3 a. 上内関節面幅 (右)	-	34	
	-	33	(左)
3 b. 上外関節面幅 (右)	-	33	
	-	35	(左)
4 a. 上内関節面深 (右)	-	48	
	-	50	(左)
4 b. 上外関節面深 (右)	-	42	
	-	39	(左)
6. 最大下端幅 (右)	-	54	
	-	51	(左)
7. 下端矢状径 (右)	32	38	
	-	38	(左)
8. 中央最大径 (右)	27	30	
	28	31	(左)
8 a. 栄養孔位最大径 (右)	31	33	
	30	34	(左)
9. 中央横径 (右)	19	23	
	19	25	(左)
9 a. 栄養孔位横径 (右)	22	27	
	21	28	(左)
10. 骨体周 (右)	74	82	
	75	86	(左)
10 a. 栄養孔位周 (右)	83	93	
	84	96	(左)
10 b. 最小周 (右)	69	78	
	69	77	(左)
9/8. 中央断面示数 (右)	70.37	76.67	
	67.86	80.65	(左)
9 a/8 a 栄養孔位断面指数 (右)	70.97	81.82	
	70.00	82.35	(左)
10 b/1 長厚示数 (右)	-	22.29	
	-	22.00	(左)

表 14 腓骨 (mm) (Fibula)

	土井ヶ浜		土井ヶ浜
	1	124	
	女性	男性	
1. 最大長 (右)	-	352	
	-	344	(左)
2. 中央最大径 (右)	-	17	
	13	18	(左)
3. 中央最小径 (右)	-	14	
	10	13	(左)
4. 中央周 (右)	-	50	
	39	52	(左)
4 a. 最小周 (右)	-	43	
	37	47	(左)
4 b. 頸横径 (右)	-	13	
	12	16	(左)
4 c. 頸矢状径 (右)	-	14	
	12	11	(左)
4(1). 上端幅 (右)	-	28	
	-	29	(左)
4(1 a). 上端矢状幅 (右)	-	27	
	-	25	(左)
4(2). 下端幅 (右)	-	22	
	-	21	(左)
4(2 a). 下端矢状幅 (右)	-	27	
	-	27	(左)
3/2 中央断面示数 (右)	76.92	82.35	
	-	72.22	(左)
4 a/1 長厚示数 (右)	-	12.22	
	-	13.66	(左)

表 15 膝蓋骨 (mm) (Patella)

	土井ヶ浜		土井ヶ浜
	1	124	
	女性	男性	
1. 最大高 (右)	-	41	
	-	42	(左)
2. 最大幅 (右)	-	43	
	-	43	(左)
3. 最大厚 (右)	-	19	
	18	20	(左)
4. 関節面高 (右)	-	35	
	-	33	(左)
5. 内関節面幅 (右)	-	22	
	-	22	(左)
6. 外関節面幅 (右)	-	24	
	23	25	(左)
1/2 膝蓋骨高幅示数 (右)	-	95.35	
	-	97.67	(左)

表 16 推定身長値 (cm) (Stature)

	土井ヶ浜		土井ヶ浜
	1	124	
	女性	男性	
Pearsonの式	147.21	159.20	上腕骨 (右)
	148.04	158.33	(左)
	-	165.41	橈骨 (右)
	-	164.76	(左)
	150.64	163.27	大腿骨 (右)
	-	163.46	(左)
	-	161.82	脛骨 (右)
	-	161.82	(左)
藤井の式	146.75	158.62	上腕骨 (右)
	147.96	158.66	(左)
	-	162.79	橈骨 (右)
	-	162.93	(左)
	150.64	162.59	大腿骨 (右)
	-	162.81	(左)
	-	162.43	脛骨 (右)
	-	162.27	(左)

表 17 最大長の比

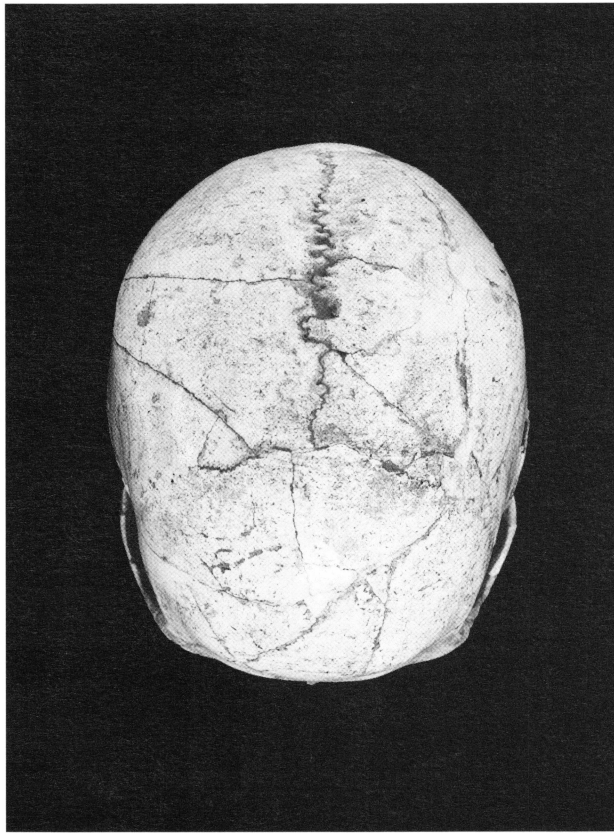
	土井ヶ浜			土井ヶ浜	
	1	女性		124	男性
橈骨 / 上腕骨	(右)	-	79.14	-	
	(左)	-	79.54	-	
橈骨 / 尺骨	(右)	-	92.75	-	
	(左)	-	-	-	
橈骨 / 大腿骨	(右)	-	55.73	-	
	(左)	-	55.15	-	
橈骨 / 脛骨	(右)	-	67.88	-	
	(左)	-	67.13	-	
上腕骨 / 大腿骨	(右)	-	70.18	-	
	(左)	69.50	69.34	-	
上腕骨 / 脛骨	(右)	-	85.47	-	
	(左)	-	84.40	-	
脛骨 / 大腿骨	(右)	-	82.11	-	
	(左)	-	82.15	-	
腓骨 / 脛骨	(右)	-	98.32	-	
	(左)	-	95.82	-	
鎖骨 / 上腕骨	(右)	-	-	-	
	(左)	-	-	-	
上肢骨 / 下肢骨	(右)	-	69.14	-	
	(左)	-	68.34	-	

表 18 中央周の比

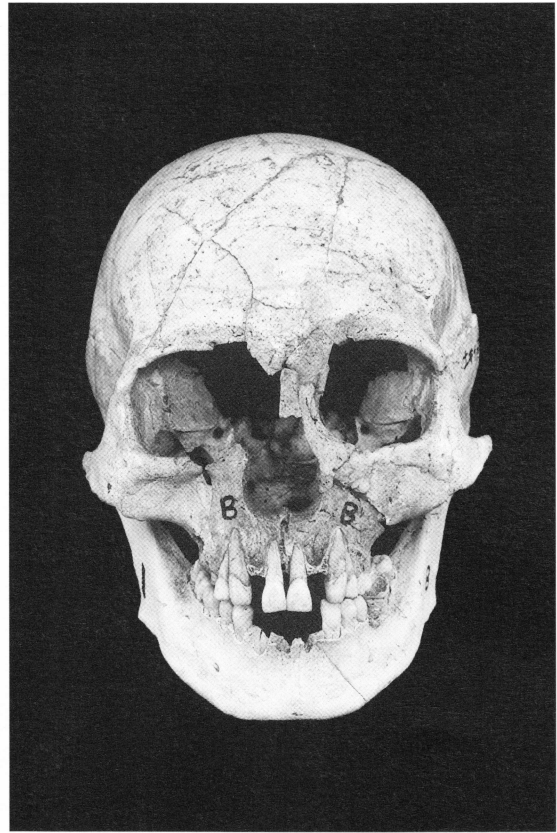
	土井ヶ浜			土井ヶ浜	
	1	女性		124	男性
橈骨 / 尺骨	(右)	86.96	88.68	-	
	(左)	85.11	-	-	
橈骨 / 上腕骨	(右)	61.54	67.14	-	
	(左)	62.50	70.00	-	
鎖骨 / 上腕骨	(右)	55.38	58.57	-	
	(左)	57.81	58.57	-	
上腕骨 / 大腿骨	(右)	73.86	81.40	-	
	(左)	72.73	76.92	-	
上腕骨 / 脛骨	(右)	87.84	85.37	-	
	(左)	85.33	81.40	-	
脛骨 / 大腿骨	(右)	84.09	95.35	-	
	(左)	85.23	94.51	-	
腓骨 / 脛骨	(右)	-	60.98	-	
	(左)	52.00	60.47	-	

表 19 形態小変異 (Non-metric crania variants)

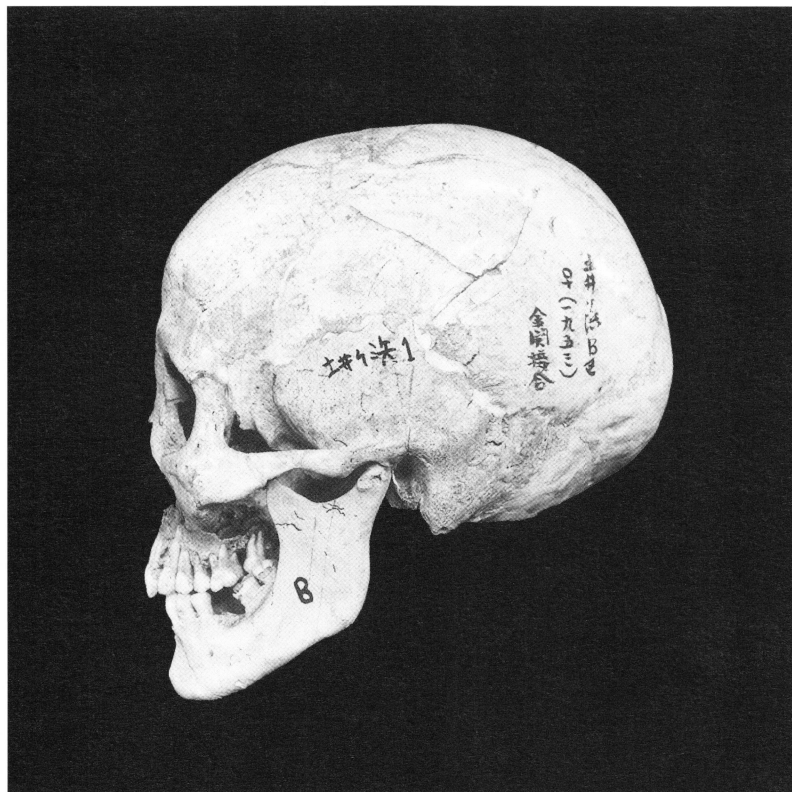
	土井ヶ浜			土井ヶ浜	
	1	女性		124	男性
1. Medial palatine canal (内側口蓋管)	/	/	/	/	/
2. Pterygospinous foramen (翼棘孔)	-	-	-	-	-
3. Hypoglossal canal bridging (舌下神経管二分)	/	/	/	/	/
4. Clivoid bridging (床状突起間骨橋)	-	-	-	-	-
5. Condylar canal absent (顎間欠如)	/	/	/	/	/
6. Tympanic dehiscence, Foramen of Huschke (> 1 mm) (フシユケ孔、鼓室骨裂孔)	-	-	-	-	-
7. Jugular foramen bridging	-	-	-	-	-
8. Precondylar tubercle	-	-	-	-	-
9. Supra-orbital foramen (incl. frontal foramen) (眼窩上孔)	/	/	/	/	/
10. Accessory infraorbital foramen (副眼窩下孔)	/	/	/	/	/
11. Zygofacial foramen absent	-	-	-	-	-
12. Aural exostosis	-	-	-	-	-
13. Metopism (前頭縫合)	-	-	-	-	-
14. Os incae	-	-	-	-	-
15. Ossicle at the lambda	-	-	-	-	-
16. Parietal notch bone	+	+	+	+	+
17. Transverse zygomatic suture (> 5 mm)	-	-	-	-	-
18. Asterion ossicle	-	-	-	-	-
19. Occipitomastoid ossicle	/	/	/	/	/
20. Epipteric ossicle	-	-	-	-	-
21. Frontotemporal articulation	-	-	-	-	-
22. Bisterrionic suture (> 10 mm)	-	-	-	-	-
23. Mylohyoid bridging (顎舌骨筋神経溝骨橋)	-	-	-	-	-
24. Accessory mental foramen (副オトガイ孔)	-	-	-	-	-
25. Mandibular torus	-	-	-	-	-
26. 滑車上孔 (上腕骨)	-	-	-	-	-



頭蓋上面 (Superior view of the Skull)



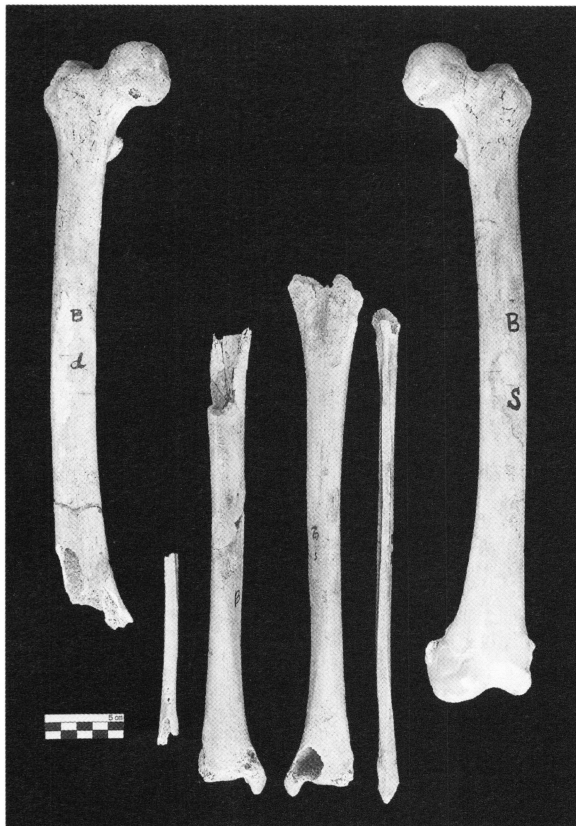
頭蓋正面 (Frontal view of the Skull)



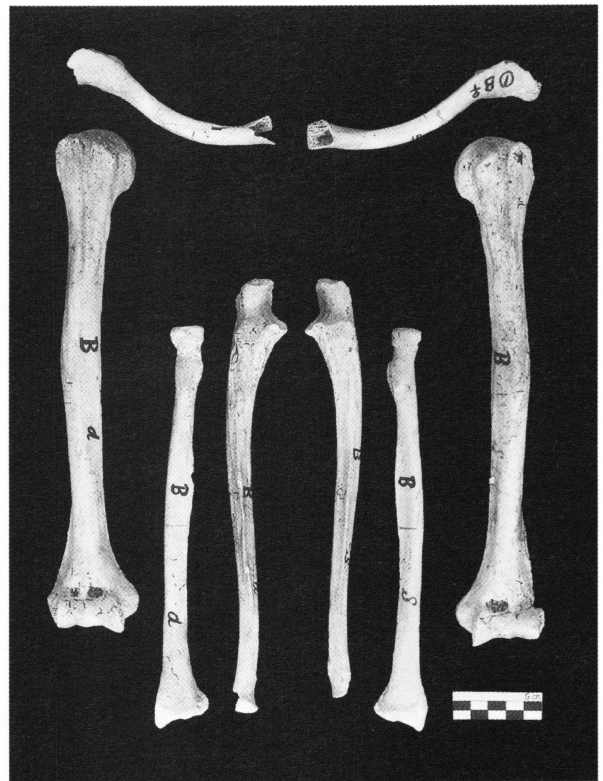
頭蓋側面 (lateral view of the skull)

土井ヶ浜1号人骨 (女性・壮年)

(The Doigahama skelton No.1, young adult female)

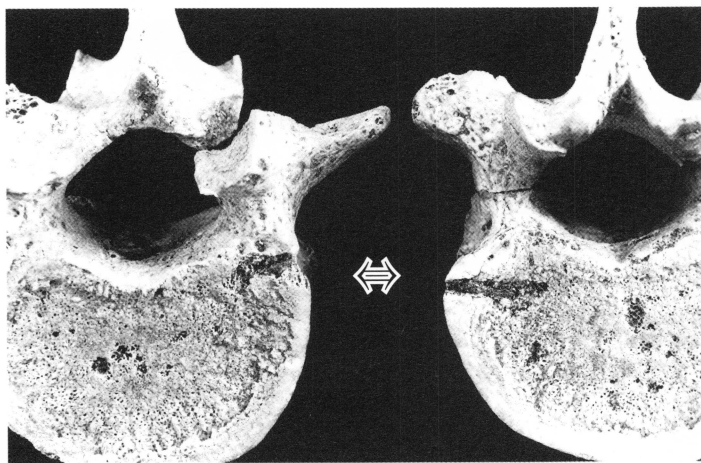


下肢骨 (Bones of the lower limb)

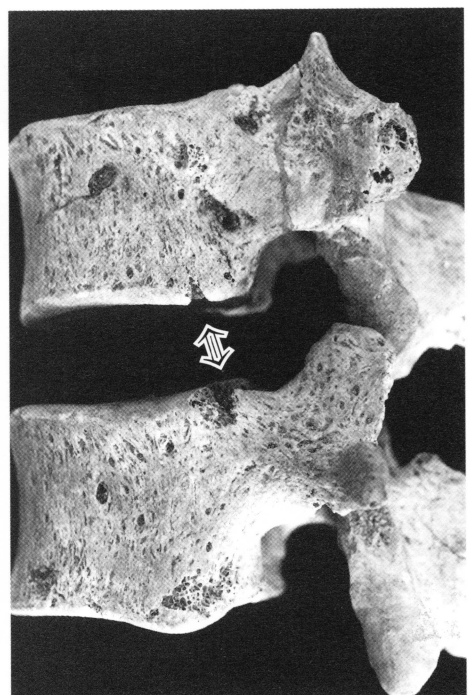


上肢骨 (Bones of the upper limb)

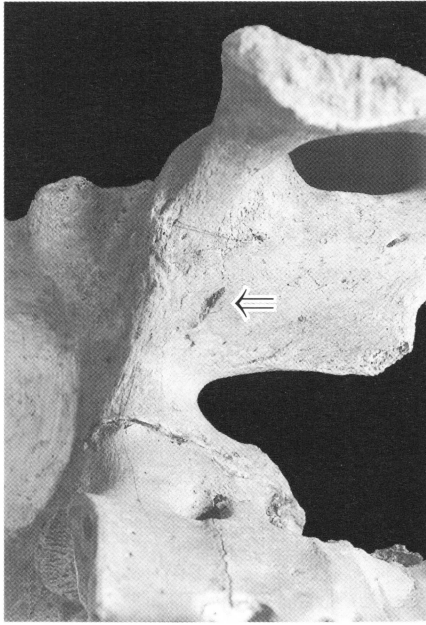
土井ヶ浜1号人骨 (女性・壮年)  
 (The Doigahama skeleton No.1, young adult female)



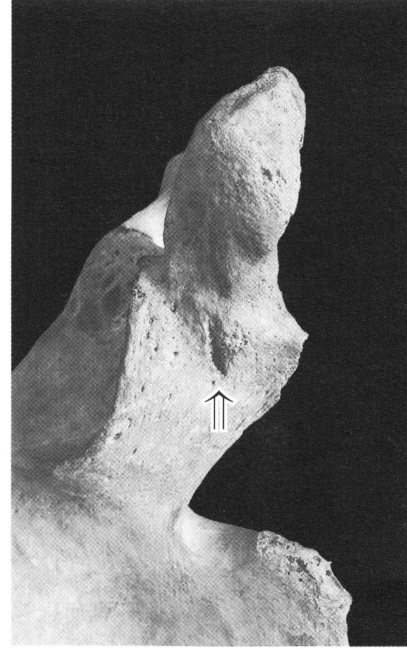
第11胸椎体・第1腰椎左側にみられる傷  
 (The body of Th<sub>11</sub>・L<sub>1</sub> with a wound)



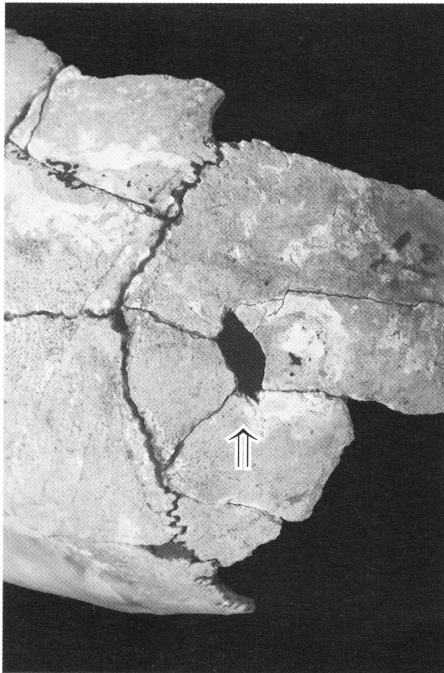




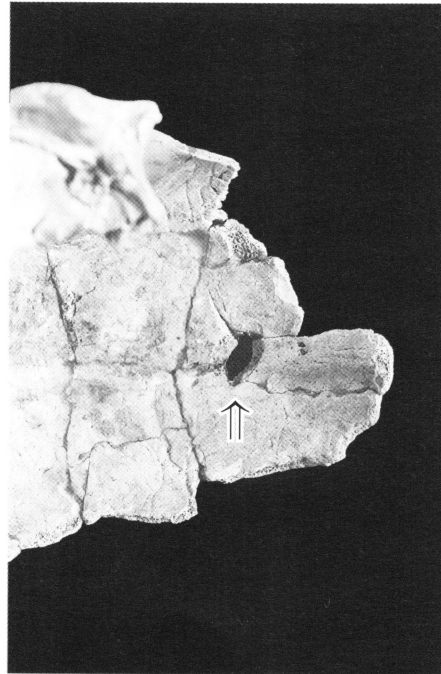
利器による損傷 (左側寛骨)  
 (The left hip bone with the wound by the weapon)



利器による損傷 (右側寛骨)  
 (The right hip bone with the wound by the weapon)

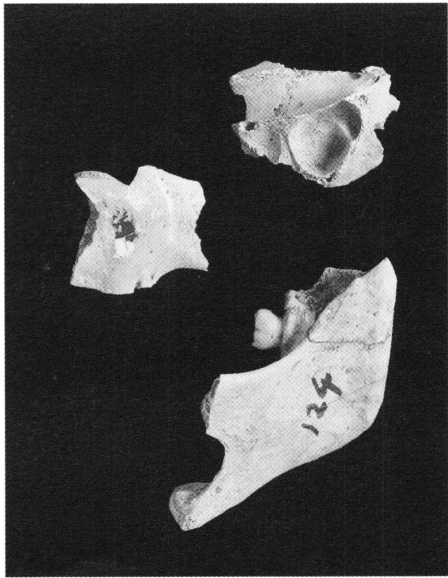


前頭骨にみられる貫入痕 (外板)  
 (The frontal bone with the mark penetrated by the weapon, external lamina)

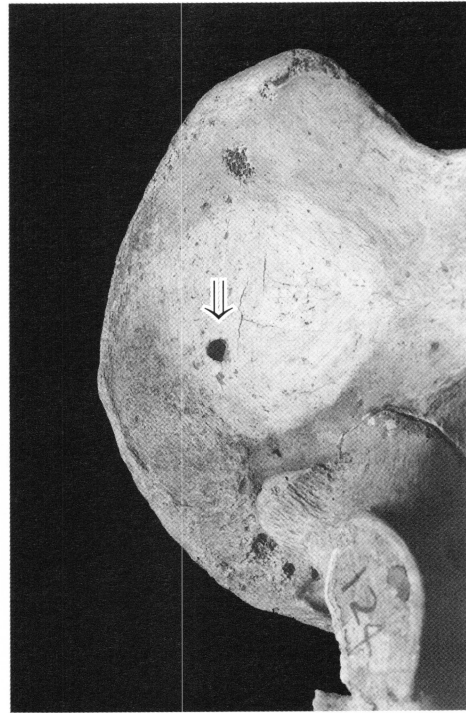


前頭骨にみられる貫入痕 (内板)  
 (The frontal bone with the mark penetrated by the weapon, internal lamina)

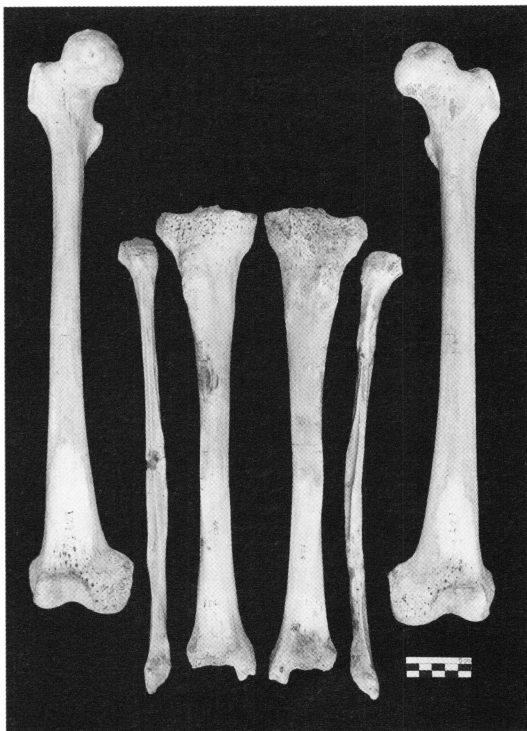
土井ヶ浜 124 号人骨 (男性・熟年)  
 (The Doigahama skeleton No. 124, mature male)



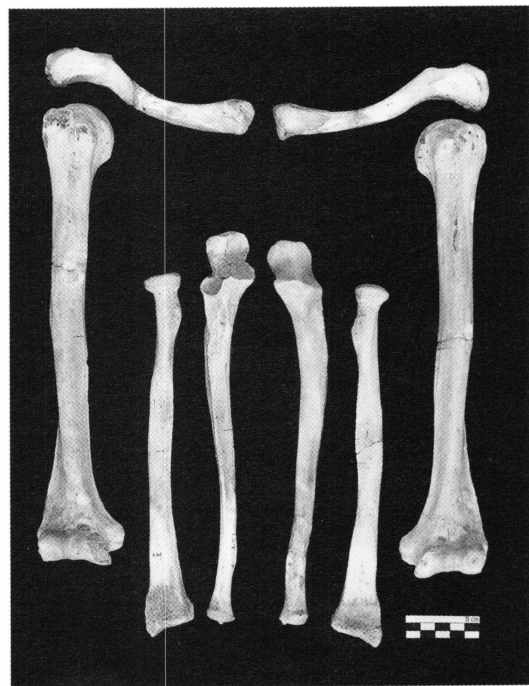
破碎された顔面骨 (The crushed facial skeleton)



穿孔 (The perforation, left hip bone)



下肢骨 (Bones of the lower limb)



上肢骨 (Bones of the upper limb)

土井ヶ浜 124 号人骨 (男性・熟年)  
(The Doigahama skeleton No. 124, mature male)

---

土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム

## 研究紀要

第3号

発行年月日 2008年3月31日  
編集・発行 土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム  
〒759-6121 山口県下関市豊北町神田上 891-8  
TEL 083-788-1841・1842

印刷 アリフク印刷株式会社  
〒759-5101 山口県下関市豊北町栗野 4896-8  
TEL 083-785-0311  
FAX 083-785-0312

---